

好きです まねばし

特集

ポエジーしてみませんが

前橋文学館 再発見

- ・ 萩原朔太郎の再発見
- ・ 萩原朔太郎をめぐる人々
- ・ 前橋文学館友の会・解説ポランテアについて
- ・ 前橋文学館および周辺施設の紹介

HOT DAY HOT TIME

前橋イベント情報

TRY 参加しよう！

伝統行事を訪ねて

前橋の建造物

「前橋乾繭取引所」

アート散歩 「心の泉」「颯爽」

トピックス TOPICS

今年のローズ・クイーン

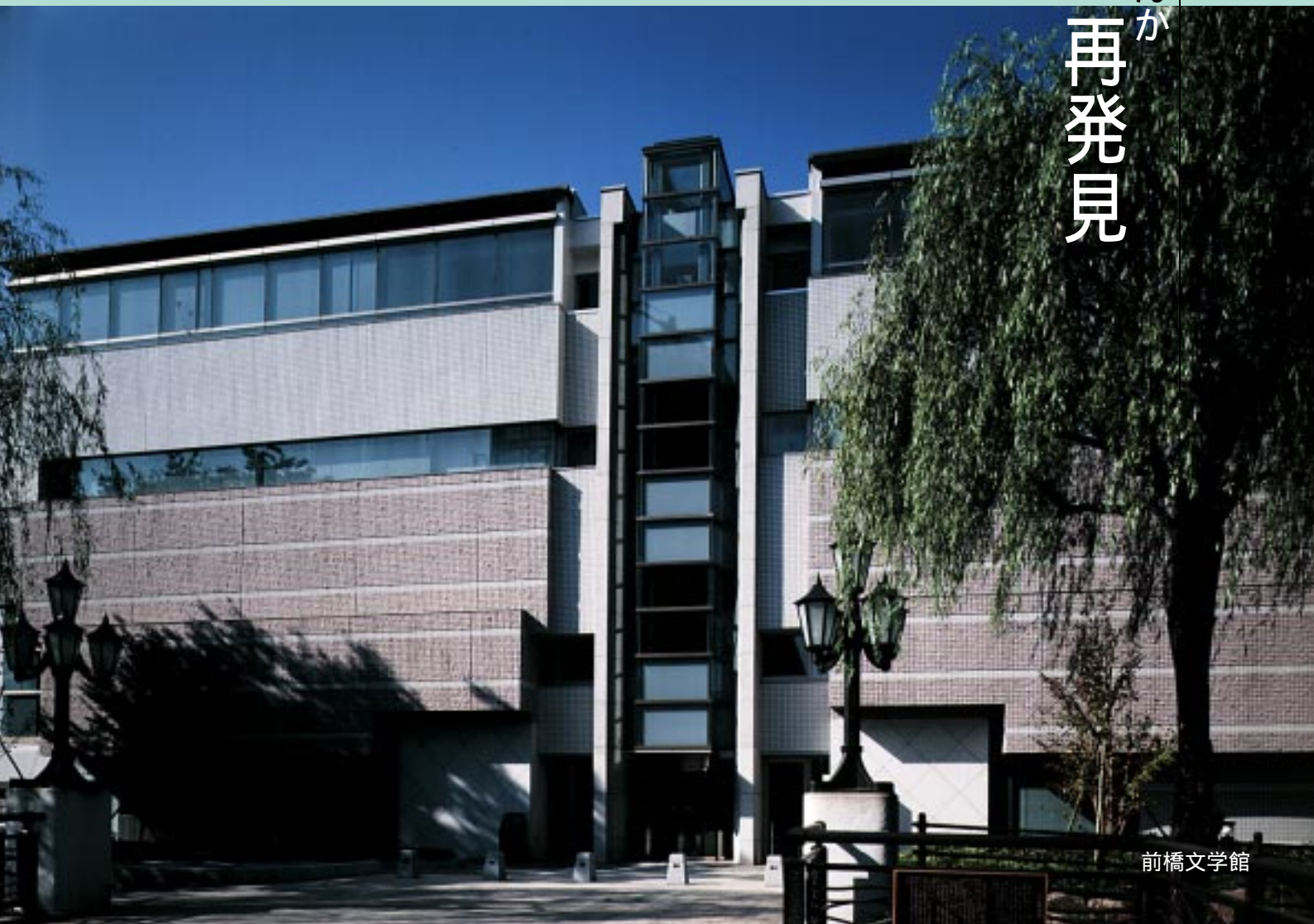
青春の碑

有名・無名の前橋人

深沢雄象（ふかさわゆうそう）

前橋広域圏コーナー

夏休み遊び場情報



ポエジーしてみませんか

MAEBASHI

特集

前橋文学館

緑が鮮やかにあふれ、川面をゆらゆらと柳がゆれ、頬伝う風が心地好い。絶え間ない水の音。「広瀬川白く流れたり 時さればみな幻想は消えゆかん。…」と萩原朔太郎はうたう。

彼の作品に触れれば触れるほど、その感性の鋭さと思考の深さに、身震いするような感動が湧いてくる。彼は何を求めていたのか。何を訴えようとしていたのか。文学館を訪れると、朔太郎の活躍した大正から昭和初期の、近代から現代へ揺れ動く時代の息吹がいきいきと伝わってくる。

「ポエジーしてゐる精神」と萩原朔太郎はいう。ポエジーしてみませんかと語りかける詩人の肉声。前橋文学館再発見の旅が始まります。

■再発見

萩原朔太郎の再発見

前橋文学館の正面玄関、広瀬川のほとりでは、下駄に
着物姿、腕を組み、片手を顎にあて、遠くを見つめ、物
思いにふけている萩原朔太郎に会うことができます。
詩人萩原朔太郎は、大正6年処女詩集『月に吠える』を
刊行、日本の近代詩に不滅の金字塔をうちたてました。
なぜならこの詩集によって、近代的思想を感覚的にうた
いあげ、我が国における口語自由詩を確立したからです。
彼の卓越した感性によってうたいあげられた詩の世界は、
平成の今も多くの人々に感動を与え続けています。



悲しい月夜

ぬすつと犬めが、
くさつた波止場の月に吠えてゐる。
たましひが耳をすますと、
陰気くさい声をして、
黄いろい娘たちが合唱してゐる、
合唱してゐる、
波止場のくらい石垣で。

いつも、
なぜおれはこれなんだ、
犬よ、
青白いふしあはせの犬よ。

詩集『純情小曲集』より



萩原朔太郎をめぐる人々

萩原朔太郎は北原白秋を師と仰ぎ、室生犀星、大手拓次とならんで白秋門
下の三羽ガラスと呼ばれていました。特に犀星とは生涯にわたり交遊を深め
ていました。また同郷の詩人である高橋元吉、伊藤信吉、そして草野心平、
さらに江戸川乱歩、谷崎潤一郎、芥川龍之介、堀辰雄、潤など同時代の作
家・歌人・詩人・思想家等との交流を通して自らの芸術的感性を高めてい
ったのです。この時代に、前橋そして東京を舞台にして様々な人々が文化的交
流をしていたのであり、当時前橋は日本文化の発信基地であったといつても
過言ではありません。そこには朔太郎を中心とした、時代の先端を担う大切
な詩空間が存在していました。



北原白秋（左から3人目）を前橋に迎えて
「侏儒」同人とともに。右から3人目が朔太
郎。大正4年1月、前橋東照宮で。



解説ボランティア

文学館を訪れる人々に、朔太郎の世界をその人の興味のレベルに応じてわかり
やすく説明してくれる、それが前橋文学館友の会の解説ボランティアの皆さんで
す。現在一期・二期が終了し、42名の方が活動を共にしています。

説明を受けながら展示室を回ると詩の世界に奥行きが広がり、とても身近に感
じられるから不思議。「詩をもっと読んでみたくなったと言ってもらうのが一番
うれしい」「前橋に住んでいる人にこそ、もっと文学館に足を運んで欲しいので
す」と、話してくれた岩瀬明子さん（左写真）のその言葉が解説ボランティアの
方達の姿勢を表しているようで、とても印象的に思えました。

ぜひ解説を聞いてみましょう。詩人達との新たな出逢いが広がるかもしれません。
前橋文学館友の会事務局 027-235-8011 内線55（前橋文学館内）

前橋文学館および周辺施設の紹介

前橋文学館は、前橋市制百周年事業の一環として構想され、1993年（平成5年）秋に、オープンしました。

2Fの常設展示室は、萩原朔太郎の資料を展示する部分を中心とし、さらに、前橋出身ゆかりの詩人・文学者たちを紹介する近代展示室があります。前橋文学館の大きな特徴は、以上の資料を展示するときにとどまらず、水と緑と詩のまちにふさわしい開かれた文化スペースであり続けている点です。3Fのホール・オープンギャラリーでは、文学館主催の講演会などの事業や市民による絵画展や写真展が催され、芸術活動の拠点となっています。

又、4Fには、朔太郎に関する文献を中心とした資料閲覧室、講義や学習会がおこなわれている研修室が備えられ、市民による文学創造の場となっています。

このように、萩原朔太郎を記念し誕生した前橋文学館は、前橋の誇る詩人・文人の足跡をたどりながら、新たな文化活動の核として日夜活動し続けています。

また広瀬川のほとり厩橋から諏訪橋までの約500Mは、美術館あり、おしゃれな小物のお店あり、お土産屋あり、また前橋ゆかりの詩人達の詩碑も点在するアート空間。前橋文学館とその周辺は、訪れる人を飽きさせないテーマパークです。



利用案内

常設展示観覧料 大人 400円
 大学生・高校生 200円
 中学生・小学生 100円
 20人以上の団体は、各2割引き
 65歳以上及び身体障害者は半額

開館時間 午前9時30分～5時
 （朔太郎展示室・近代文学展示室・企画展示室・資料閲覧室）
 午前9時～午後9時
 （ホール・オープンギャラリー・研修室）

休館日 月曜日、年末年始その他規則等で定める日
 館使用料

区分	使用料		
	午前	午後	夜間
ホール	1,440円	1,920円	1,440円
オープンギャラリー	1,350円	1,800円	1,350円
研修室	810円	1,080円	810円



関越自動車道前橋1.Cから車で15分
 前橋駅からタクシーで5分
 周辺駐車場をご利用ください



前橋 イベント 情報



真夏の夜の競演

前橋花火大会

8月15日(土)、恒例の「花火大会」を今年も開催します。真夏の夜空を彩る光と音の祭典、空中ナイアガラなど趣向を凝らした1万5千発の打ち上げにご期待下さい。

問い合わせ / 市商業観光課(内)3603

場所 / 敷島公園・利根川河川緑地

交通 / JR両毛線・前橋駅よりバス15分

関越自動車道・前橋ICより20分

利根川の激流に挑戦!!

チャレンジ・オブ・トネ



手作りのいかだで利根川下り。7月26日(日)、利根川昭和大桥下流から上武大桥下流まで、自然の源である川を愛する心とともに挑戦します。

問い合わせ / 大会事務局(前橋商工会議所)
027-234-5111

50年の伝統

前橋まつり

市民総参加のまつりとして、親しまれ続けている「前橋まつり」。開催は10月17日(土)・18日(日)です。50回目を迎える今年も、小学校の鼓笛吹奏楽パレードに始まり町内会自慢の山車やお神輿が練り歩き、ますます好評の「前橋だんべえ踊り」市の木(イチヨウ)をかたどったオオイチョウ(鳴子)を響かせて、総勢2千人がそよいの衣裳でまつりのフィナーレを演出します。当日の飛び入り参加も大歓迎です。

また、利根川中央大桥西駐車場と市内中心部を結ぶ「無料おまつりバス」も運行されますので、ご利用ください。

問い合わせ / 市商業観光課(内)3603

場所 / 市内中心部

交通 / JR両毛線・前橋駅または

上毛電気鉄道・中央前橋駅下車

関越自動車道・前橋ICより15分



夏休み最後のイベント

ホリデーイン前橋

大人と子供が、みじかな自然のなかでふれ合える遊び場を提供します。こども自然体験隊、木工広場、わんぱく相撲大会など内容は盛りだくさん。8月23日(日)まさに、夏休み最後のイベントをお楽しみください。

問い合わせ / 前橋青年会議所事務局
027-234-3670

場所 / 敷島公園松林

交通 / JR両毛線・前橋駅よりバス15分

関越自動車道・前橋ICより20分

開運招福

お酉さま

冬の風物詩として毎年開かれています「前橋西の市祭り」は11月10日(火)の大酉の日です。甘酒やおでんの無料サービス、福引大抽選会なども行われ、前橋広域物産展大特売会も同時開催されます。

問い合わせ / 市商業観光課(内)3603

場所 / 熊野神社(中心商店街)

交通 / JR両毛線・前橋駅または

上毛電気鉄道・中央前橋駅下車

関越自動車道・前橋ICより15分



イベントスケジュール(TRY 参加しよう!)

7月9日(木)~12日(日) / 前橋七夕まつり(市内中心部)	10月17日(土)~18日(日) / 第6回収穫感謝祭(グリーンドーム前橋)
7月25日(土) / 前橋納涼夜市(JR前橋駅北口広場)	11月1日(日) / 第6回萩原朔太郎賞贈呈式並びに記念イベント
9月15日(火) / 前橋歴史散歩(城南地区)	11月3日(火) / 前橋詩碑めぐり(市内一円)
10月4日(土) / 第9回前橋ふれあいバザール(JR前橋駅北口広場)	11月中旬 / 秋元歴史祭り(総社公民館)

糸のまちの
歴史を伝える 前橋乾繭取引所



前橋乾繭取引所は昭和27年7月に農林水産大臣（当時の農林大臣）の許可を受けて我が国最大の蚕都である前橋（現在の住吉町二丁目）に製糸会社や生糸商、養蚕組合などの有志により設立されました。将来の価格変動の危険を回避するリスクヘッジや投機を提供する商品取引所です。

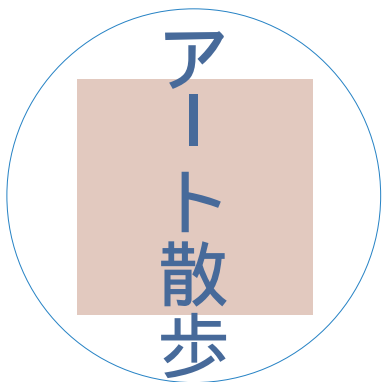
かつて日本の貿易の大半を占めたシルクは、両毛線、八高線を通して横浜の港から海外へ輸出されましたが、ニューヨークの生糸相場が大戦前になくなり、戦後、横浜や神戸の生糸相場が世界の指標となったときに、養蚕県群馬、とりわけ前橋の事業家は唯一生糸原料の「繭価格」こそ大事とその設立に意気地を見せました。



現前橋市古市町1丁目

しかしながら、時代の流れとともに、中国やブラジルなどに繭や生糸の生産主体が移行する中で、我が国の旺盛なシルク需要を背景に再び世界の繭糸相場の指標たらんと、平成10年10月1日をもって横浜生絲取引所（横浜市）と新たに多様な商品をも上場すべく横浜商品取引所を設立し、両取引所が解散する道を選択しました。

乾繭の現物流通の足場は前橋に置くなどの配慮はあっても、また一つ「糸のまち前橋」を象徴する喧噪の中での「立ち会い」が消えようとしています。前橋の意気地はそのまま引き継がれるでしょう。



「心の泉」(1992)
(黒田 能勝：作)



「颯爽(さっそう)」(1992)
(桜井 水月：作)

前橋の中心部にある馬場川遊歩道公園の通りの向かい側にはブティック等が並び、若者たちに人気を呼んでいます。

その中央にある黒田能勝の作品「心の泉」は、ちょっと異様な顔と形をしています。

しかし、心の底からほとばしる温もりが伝わり、見る者を不思議な世界に引き込みます。

毎日の生活の中で彫刻と出逢い、夢の世界へ誘います。

また周辺には、桜井水月の作品「颯爽(さっそう)」がありますが、ここでは彫刻が都市の風景を刺激的なものにしています。



裸御輿(左奥)と子ども御輿(手前)

シリーズ③
宗甫分の
水神社と
裸御輿
を訪ねて

南町二丁目辺りが宗甫分村と呼ばれていた頃、利根川の対岸の小相木とを結び「実正の渡し」と言う渡し舟があり、その船頭達が水難防止を祈願するために水波能女命を氏神として祀り水神社が建立されました。また同じ境内末社に神長宝神社が在り、こちらは厄除招福、五穀豊穡の守護神として経津主命が祀られています。

その水神社の祭礼の一環として七月十四日から翌十五日にかけて神輿の渡御が行われ、水難よけ・無病息災・五穀豊穡を願って社に奉納されている御神輿を裸の若衆がかつぎ出し町内をねり歩いて行きます。その際にまわりから神輿めがけて盛んに水がかけられ、この光景は神輿が神社に戻るまで続きます。この祭も戦後中断していましたが、昭和五十三年南部大橋開通を祝し町民の総意により復活し今日に至っています。

トピックス

今年のローズクイーン

4月26日、第7回「ローズ・クイーン」コンテストの最終審査の結果、3名のローズクイーンが新たに選出されました。前橋の印象・一年間の抱負を語っていただきました。



伊藤智美さん

人々の目を楽しませてくれる春の桜や満開のバラが印象的な敷島公園。前橋市民のオアシスを多くの人々にPRしていきたいと思います。



加藤舞衣さん

前橋の中心街を流れる広瀬川沿いの遊歩道は、しっとりとして落ち着いた雰囲気を持ち、緑を心から堪能できるスポットです。みなさんもお出かけになってみてはいかがでしょうか。



渡邊可織さん

前橋にはすてきな場所がたくさんあります。桜の花でいっぱいの『さちの池』の風景。皆さんに前橋の良さを知っていただけるように努めていきます。



青春の碑

バーミングハム市（米国・アラバマ州）出身の詩人、サムエル・ウルマン（1840～1924）の散文詩「青春」を刻んだ「青春の碑」が、前橋文学館前の広瀬川河畔に平成10年5月23日完成しました。

これは、前橋とバーミングハム両市の交流を深め、推進しようと市内の経済人らで構成された「前橋青春の会」（金子才十郎会長）が中心になり、市民からの賛助金を得て、作られたものです。この「青春の碑」には詩の原文と日本語訳が刻まれています。

散文詩「青春」は「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。」の有名な一節があり、GHQのマッカーサー司令官の執務室に飾ってあり、それが日本中に広まっていったと言われています。

除幕式には、萩原弥惣治前橋市長、バーミングハムのリチャード・アーリントン市長、金子才十郎会長、「東京青春の会」会長で森田健作衆議院議員らが出席しました。

有名・無名の前橋人 - ③

深沢雄象（ふかさわ ゆうぞう）1833～1907

富岡に日本で最初の官営製糸場を造る2年前、明治3年「前橋藩営製糸場」を速水堅曹（創刊号で掲載）らとともに創設、我が国最初の器械製糸場が誕生しました。

雄象は川越で生まれ、慶応3年（1867）前橋城の再築で城主松平直克が戻ってくるのに伴い前橋へ移りました。大目付、町奉行など藩の要職にあった雄象は盛んな前橋の生糸に目を付け藩財政の立て直しの産業として西洋技術を取り入れた器械製糸導入を考え、明治3年前橋藩営製糸場が生まれました。

また、その一方で座繰り製糸の改良に取り組み、精糸原社を興し、前橋生糸の品質向上を図りました。これらは明治維新で禄（ろく）を失った武士の仕事を考えてのことでしたが、本市の製糸業の確立と発展に大きく貢献することになりました。

キリスト教徒でもあった雄象は、工場経営にその精神をもってあたり、自由と権利を尊重するなど当時としては近代的な労務管理を行ったといわれています。

やはり製糸家で共愛学園の創立に尽力のあった深沢利重は雄象の長女こうの夫です。



前橋広域圏コーナー



赤城ふれあいの森



大胡ぐりんふらわー牧場キャンプ場

夏休み遊場情報



嶺公園



不動大滝

富士見村観光協会（富士見村役場産業課）
☎027-288-2211 勢多郡富士見村大字田島240
大胡町観光協会（大胡町役場都市企画課）
☎027-283-1111 勢多郡大胡町堀越1115

宮城村観光協会（宮城村役場産業経済課）
☎027-283-2131 勢多郡宮城村大字鼻毛石1426-3
粕川村観光協会（粕川村役場企画課）
☎027-285-4111 勢多郡粕川村大字西田面216-1

問い合わせ先

前橋市観光協会事務局
前橋市商業観光課 ☎027-224-1111 前橋市大手町二丁目12-1
前橋商工会議所業務課 ☎027-234-5111 前橋市日吉町一丁目8-1

JR前橋駅観光案内所 ☎027-221-0167 前橋市表町二丁目29-16
前橋旅館ホテル協同組合 ☎027-231-8693 前橋市大手町三丁目5-13
前橋市ホームページアドレス <http://www.city.maebashi.gunma.jp/>



前橋から透き通った贈り物。
「まえばしの水」好評発売中

1ℓペットボトル・200円
全国へ配達 送料実費 先承ります。
前橋市観光協会事務局へ